

## 46. 軽度認知機能障害（MCI）に関わる関連因子と 転帰に関する調査研究

- 角森輝美（久山町ヘルスC&Cセンター）
- 物袋由美子（久山町健康福祉課）
- 稲永みき（久山町健康福祉課）
- 持松可奈子（久山町健康福祉課）
- 永田由紀子（久山町健康福祉課）
- 清原裕（九州大学医学研究院環境医学）
- 小原知之（九州大学医学研究院精神病態医学）

### 【研究目的】

平成 24 年度久山町高齢者健康調査時の軽度認知機能障害 (MCI) 者の転帰調査と、生活環境・社会活動調査を行い、軽度認知機能障害 (MCI) に関わる関連因子と転帰について明らかにする。このことにより、軽度認知機能障害 (MCI) の悪化の要因や、改善の要因を検討して認知症の予防法を検討する。

### 【研究の必要性】

日本の高齢者の認知症有病率は 15%、また軽度認知機能障害 (MCI) の有病率は 13% と言われており今後も認知症者が増加することが予測されるとしている<sup>1)</sup>。

また、軽度認知機能障害 (MCI) については 3 年間で 3.7% が認知症に移行し、そうでない高齢者からの発症は 0.2% であり、また 38.5% は 5 年後に正常に回復したとする報告がある<sup>2)</sup>。このことから、軽度認知機能障害 (MCI) への取り組みを行うことは、軽度の認知機能低下により生活のしづらさを抱える人の手助けや、認知症の予防対策につながると考える。そのため、軽度認知機能障害 (MCI) に関わる関連要因と転帰を明らかにすることは意義がある。

### 【研究計画】

#### 1. 対象者

福岡県久山町の 65 歳以上（平成 24 年 1 月 1 日現在）の住民のうち

平成 24 年度 久山町高齢者健康調査者；1,904 人中 軽度認知機能障害 (MCI) 者 190 名

#### 2. 研究方法

##### ① 既存データの分析

- ・九州大学と共同による高齢者健康調査データ
- ・介護保険認定情報

- ・特定高齢者把握基本チェックリストデータ

## ② 面接・訪問調査

- ・生活環境・・・家族構成、住居、家庭内での役割等
- ・社会活動・・・仕事、趣味、友人・親族・近隣とのつきあい、外出頻度、集団活動への参加状況等

## ③面接調査期間

平成 27 年 2 月～3 月

### 【実施内容・結果】

平成 24 年度九州大学と共同で行った、久山町高齢者健康調査実施者 1,904 名中 MCI と診断された 190 名の内、転出者 6 名・死亡者 19 名・入院中者 7 名を除いた 158 名に対して看護師、保健師による面接調査を行った。そのうち、調査拒否 1 名を除いた、男性 76 名、女性 81 名の合計 157 名について分析を行った。日常生活に影響をきたす認知症になったのは 157 名中 12 名の 7.6%であった。

#### 1. 年齢

平均年齢は男性 78.8 歳、女性 80.7 歳、全体 79.8 歳であった(平成 27 年 2 月 1 日現在)。

#### 2. 居住状況

一人暮らしの割合は男性 10 名の 9%、女性 15 名の 12%であった。

#### 3. 家庭での役割や仕事の状況

家庭での役割がある者は、男性 62 名の 80%であり主な役割は田畑の仕事であった。女性では、70 名の 86%であった。また主な役割は家事であった。勤務している者も男性 12 名、女性 4 名いた。

#### 4. 趣味の状況

男性で趣味があると答えたものは 76 名中 39 名の 51.3%であった。内容は、釣りや野菜づくりや庭の手入れであった。女性は 81 名中 33 名の 40.7%であった。内容は、折り紙。お花、カラオケ、編み物などであった。

## 5. 定期的な集まりへの参加状況

表1

	男性
参加している	33名
していない	42名
無回答	1名



参加場所	
地区のサロン	2名
ふれあいスクール	0名
デイケア	1名
その他 (老人クラブや 区の会合、趣味も兼ねる)	31名

表2

	女性
参加している	49名
していない	32名



参加場所	
サロン	17名
ふれあいスクール	12名
デイサービス	9名
その他 (趣味の場へ参加するこ とが多くみられる)	20名

男性は地区のサロンや、社会福祉協議会が主催する、生きがい活動通所事業（ふれあいスクール）への参加が少なかった。（表1・表2）

## 6. 外出の状況

外出の状況で、ほとんど出かけない人は男性5%、女性6%であり、ほとんどの人が出かけていた。（表3・表4）

表3

	男性
毎日	49名
週数日	18名
月数回	3名
ほとんど出ない	4名
無回答	2名

表4

	女性
毎日	42名
週数日	32名
月数回	1名
ほとんど出ない	5名
無回答	1名

## 7. 特定高齢者機能評価アンケート項目との関連

- ⑰ 昨年と比べて外出の回数が減った
- ⑱ 周りの人から「いつも同じことを聞く」などのもの忘れがあるといわれている
- ⑲ 今日が何月何日わからない時がある

の項目いずれかに該当等した者は63名の40.1%であった。

この63名の内、75%家庭内での役割があり、家族と同居者も81%であった。しかし、定期的な集まりへの参加状況では、62%が参加していなかった。（表5）

表5 特定高齢者機能評価アンケート⑰、⑱、⑳に「はい」と回答した人の状況

	役割		定期的集まり		家族構成	
	あり	なし	参加している	参加していない	家族と一緒に	ひとり
計	47 75%	16 25%	30 48%	32 62%	51 81%	12 19%

\* 無回答1

### 8. 過去の外出状況（平成20年度特定高齢者機能評価から）

平成24年度MCIの診断を受けた190名の過去の外出状況を平成20年度特定高齢者機能評価からみると、特定高齢者機能評価を受けた136名について外出が減った人23名の17%であった。

### 9. 日常生活に影響をきたす認知症になった者の状況

日常生活に影響をきたす認知症になった者12名のうち在宅の11名についてみる。

#### (1) 家族構成

1人暮らし2名、夫婦2人暮らし4名、子どもと2人暮らし2名、その他4名であった。

#### (2) 性別と年齢

男性4名、女性7名 平均年齢 男性81.75歳、女性88.4歳

#### (3) 日常生活に影響をきたす認知症になった者と変化がなかった者の外出状況

日常生活に影響をきたす認知症の状況になったもの12名のうち在宅者11名と変化がなかった者146名についてみる。

図1 日常生活に影響無の者

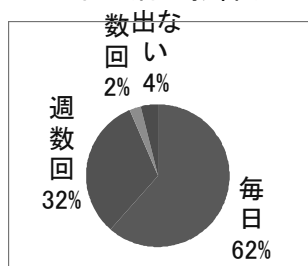
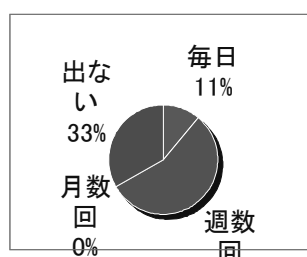


図2 日常生活に影響がある者



日常生活に影響のない146名では、4%が外出しないであり、日常生活に困難をきたす認知症の状況になった11名は外出しないと答えた者が33%となっていた。(図1・図2)しかし、以前の生活を質問すると、11名のうち9名は趣味や、運動教室、サロン、老人クラブなどに参加していた者であった。又、2名については平成17年度高齢者健康調査において、HDS-Rがそれぞれ、22点と25点であった。

### 【考察と今後の課題】

吉田らによると、軽度認知機能障害(MCI)は3年間で3.7%が認知症に移行するとして

いる<sup>3)</sup>。しかし、今回は日常生活に影響をきたす認知症になったものは2年6ヶ月で157名中12名の7.6%であり、吉田らの報告より多い割合であった。

また、島田らの研究では、社会参加や、知的活動が認知症発症に対する保護要因としている<sup>4)</sup>が、今回、軽度認知機能障害（MCI）から、日常生活に影響をおよぼす認知症に移行した者11名については、社会参加の減少が発症後には見られたものの、発症前には要因として見られなかった。また年齢は、男性、女性共に、軽度認知機能障害（MCI）の平均年齢より、日常生活に影響をおよぼす認知症に移行した者の平均年齢は高くなっていた。

軽度認知機能障害（MCI）者の生活環境や、社会活動の状況について、訪問による面接調査を実施したが、家庭の中での役割や、仕事、趣味等への活動が維持されていた。今回の調査では、日常生活に影響をおよぼす認知症の発症者は11名であり、生活環境や、社会活動参加状況の要因は検証できなかった。しかし11例の個別生活歴をみると、閉じこもりなどの社会参加減少が要因でなく、社会参加減少は二次的に起ったものと考えられた。

このことが今後の課題として残された。軽度認知機能障害（MCI）者の認知症への移行について生活や、環境要因を特定するには、断面調査ではなく、毎年継続して生活を見ていくことや、症例数の積み重ねにより課題が明らかにされると考える。

軽度認知機能障害（MCI）者の男性は、女性に比べサロンのものへの参加が少ないことは、身近なところでの集いの場の設定がされる介護保険の地域支援事業のあり方の検討が示唆された。

- 1) 朝田 隆, 他：平成24年度厚生労働科学研究費補助金「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」
- 2)、3) 吉田大輔, 他：認知障害と関連する日常生活活動の検討. 第53回日本老年医学学会学術集会, 2011年.
- 4) 島田裕之研究代表者：戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）平成24年度研究開発実施報告書

**【経費使途明細】**

使途内容	金額
賃金（看護師訪問調査員2名・データー入力者1名）	281,500円
消耗品（用紙、インク、訪問時調査用紙フォルダーノート等）	31,156円
会議費（打ち合わせお茶代2回×7人×120円）	1,680円
計	314,336円
大同生命厚生事業団助成金	300,000円